スポーツボランティアの交流情報紙
SVニュース
発行　ＳＶ２００４　（宮城県仙台市）
発行日　２００８年９月１５日　（月１回発行）
私たちはスポーツボランティア活動を応援します

特集　スポーツボランティアの思い

全国スポーツボランティア意識調査　Ｎｏ．１　（２００８年８月実施）

［仙台泉ケ岳アウトドア･フェスティバル］

［女子ソフトボール日本代表壮行試合 in 仙台］

［プロバスケット仙台８９ＥＲＳ］

＜調査の目的＞
　今私たちの周りでは数多くのスポーツイベントが開催され、たくさんのスポーツボランティアが日常的に活動するようになっています。組織の形態も担当する活動内容もさまざまですが、そこには地元のスポーツイベントやチームを支えたいという強い思いがあります。しかし、自発的に参加することが基本となっている活動は、決して楽しいことばかりではなく、いつしか活動を止めていく人も多いのも実情です。そこで経験が豊富で全国のプロスポーツチームのサポートの中でボランティアとしてリーダー的なポジションにある方々に、活動のエネルギーや課題について答えていただきました。調査はメールにて行い回答もメールにていただきました。

【　協力いただいた地域／北海道・東京・愛媛・静岡・千葉・広島・茨城・新潟・神奈川・山梨・宮城・山形／回答順　】

◆　活動のモチベーションについて
　スポーツのボランティア活動を中心になって行っている人々は、何故参加し積極的に続けているのか。動機や楽しみはどこにあるのか、その回答には、きっと続けるためのヒントがあるはずです。

Ｑ１　何故、スポーツのボランティア活動に参加しているのですか。

［楽天イーグルスボランティア］

　回答は大きくみっつに分かれました。ひとつは（○）「地元のチームを支えたい（そのスポーツが好きだから）」というもの、もうひとつ（◎）は「裏側をみてみたい」というもので確かに観客からは見えない部分に興味を感じるという動機もわかります。そしてみっつめは（★）「いきがい探しやストレス解消」など主として自分のためというものでした。

○　クラブのために手伝いたい。　（山形）
○　好きなチームを支えることでプレーしたり観るのとは違う達成感がある。（山梨）
○　サッカーが好きだから　（宮城・東京）
○　地元のチームをサポートしたいと思ったから。（広島・静岡・愛媛・宮城）
◎　プロスポーツの裏側を見ることができるという好奇心から応募しました。（新潟）
◎　いつも観客としてみている舞台裏をのぞいてみたい。（神奈川）
★　自分探し　（北海道）　★　ストレス解消　（北海道・愛媛）　★　いきがい（茨城）

他にも余暇時間の有効活用（千葉）や健康維持（宮城）などもありましたが、**活動を継続していく中で、当初の参加動機と現在の参加動機に変化がみられました。**いわば第二段階ともいえるその変化は、長く続けることでリーダーとして周りから頼りにされたり、その結果としてボランティア活動に対し視野が広がったりするためでしょうか。それが、「楽しい」ということにつながるようです。活動に慣れていい人間関係やコミュニティが生まれることは、活動の余裕やさまざまな次への向上心を生み出します。しかし、残念ながら全ての人がそうなるわけではありません。では、どんなときにボランティアは楽しいと感じているのでしょうか、それが次の質問です。

Q２　活動していて一番「楽しい」と感じるのはどんなときですか。

【宮城・グランディ２１ボランティア】

○　仲間同士の交流　（北海道・愛媛・新潟・宮城・東京・山梨）
○　仲間と感動を分かち合えたとき・仲間意識をもてたとき　（茨城・東京）
○　お客様の欲求をなんらかの形で満たすことができたとき　（千葉）
○　お客様から「ありがとう」の一言がきけたとき
　（東京・山形・千葉・新潟・宮城）
○　「こんにちは」の挨拶に応えてもらったとき　（広島）
○　活動に関わること全て　（神奈川）
○　サポートしている充実感　（新潟・山形）

「楽しい」ことの多くは、相手や仲間がいて、その会話を中心とするコミュニケーションによって生まれているようです。その意味では日常的に「ありがとう」「こんにちは」といった言葉が自然に使われる環境が大切と感じました。また、活動に参加している人同士の交流や、同じスポーツボランティア同士の交流や情報交換の機会を多く作ることもリーダーや運営者に求められそうです。質問の段階では「楽しい」と感じるポイントはもっと多岐にわたると想定していました。しかし、活動の多くが人と接するものということからも、「いいコミュニケーション」に集中したことは当然なのかもしれません。尚、他にもリーダーならではの回答も下記にありましたのでご紹介します。

◎　ナイトゲームのあとにライトに照らされた人気のないピッチをみること　（山形）
◎　納会のときに「今年も一年間続けた甲斐があった」と毎年感じます　（新潟）
◎　場内がいっぱいで自分もいっぱいいっぱいになっているときが実は楽しかったりする　（千葉）
◎　ひいきのチームが応援できたり臨場感が味わえること　（宮城）

Q３　活動していて一番「つらい」と感じるのはどんなときですか。

ボランティアとして、また、特にリーダーとしてその多くは「楽しい」と感じて活動しているものの、現実には「つらい」と感じる瞬間もあるはず。見方を変えればそこを改善できれば「より楽しい」ボランティア活動が可能になるのでは、と考えてあえてマイナスの質問をぶつけてみました。

【 写真／SV２００４救命セミナー 】

○　お客様から心無い言葉をかけられたとき　（新潟）
○　活動上トラブルがあったとき　（山梨・千葉）
○　ルールを守っていただけないお客様がいること（山形・広島・宮城）
○　ボランティアでは対応できないことにクレームをつけられたとき
（千葉）
○　活動時間が不安定なところ　（宮城）
○　集合時間が早すぎたり、終了時間が遅すぎたりすること　（宮城・東京）
○　人間関係のトラブル　（神奈川）
○　主催者の無理解や無配慮を感じたとき　（千葉・愛媛）
○　ボランティアスタッフと同じ方向を向いていないとき　（静岡）

最も多かったのはお客様との問題でボランティアでは解決が困難な場面に接し、その対応から生じるストレスに集中しました。相手（お客様）からは主催する側のスタッフとしてみられるポジションであり、今後に向けてはスポーツボランティア自体の認知を徹底して高めることや、トラブルに対して迅速に運営側の責任者や警備スタッフと連動できるシステムが求められているようです。次に活動時間に関する回答では、基本的には主催者側のスタッフとの活動の分担を進めることで、ボランティアの負担感を減らす努力が求められます。最期にコミュニケーションに関する回答がいくつかありました。このあたりはリーダーだからこそより多く感じるものかもしれません。現在多くのスポーツボランティア組織が採用しているリーダー制度（呼び名はいろいろです）は、任命の基準が明確になっていない場合もあり、必要な経験やリーダーとして必要なスキルが不足しているためにトラブルが発生する場合もあります。ですからリーダーに対しては必要な研修や一定の権限を運営する側では用意する必要があると感じます。さらに、リーダーであってもボランティアであるという認識をもってしっかりサポートする考え方と仕組みを作ってほしいものです。尚、そのほかの回答も解決は困難ですが忘れないようにしたいものです。

○　参加したいのに参加できないとき　（北海道）
○　チームの結果がでないとき　（茨城・山梨）
○　家族に負担をかけていること　（東京）
※　この調査報告はＮｏ．２（情報・成長編）・Ｎｏ．３（交流・自慢・課題編）に続きます。
　⇒　掲載は１０月号・１１月号を予定しておりますが、紙面の都合で変更となる場合もありますのでご了承下さい。

Ｊリーグ・オールスター
ボランティア活動報告

新潟　Alliance2002　　金子　法泰
http://alliance2002.web.fc2.com/

年に１度、各地のＪクラブボランティアが一堂に会して夢舞台を作り上げるこの企画を心待ちにしていた北は仙台、南は鳥栖から集まった160人を越えるボランティアの皆さんが、８月２日国立霞ヶ丘競技場で清々しい汗を流しながら爽やかな活動をしました。新潟からは５名が参加してきたので当日の活動を報告します。

正午国立競技場に集合ということからアルビレックス新潟の美咲町クラブハウスを午前５時30分に出発。道中、渋滞が心配でしたが、日頃の行いが良いせいでしょうか、渋滞に巻き込まれることなく、午前10時に宿泊する神田駅近くのビジネスホテルに無事到着。神田駅から電車で国立競技場へ向いました。

歴史ある国立競技場の佇まいを感じながら歩を進め、受付に近づくと、FC東京のボランティアの方が「ボランティア入口」の幟を持って出迎えていました。再会を喜び、元気に活動することを誓い合い、集合場所に進むと、今年も一緒に活動できる喜びが沸いてきました。

ただ、例年と違っているのは、ともに舞台を作り上げると言っても参加者全員で同じ活動をするということではないこと。今年の活動はフェイスペイント、Ｔパック引き換え、スタンプラリー、チケット確認、インフォメーション、センターサークルシートベアラー、そして明治公園でのファンフェスタ運営と多岐に渡っていました。そして、ファンフェスタとスタジアムで活動する人たちの集合時間、活動時間は違っていたので、両者が顔を合わせることが出来るのは懇親会という事でした。

当日の気温は３０度を優に超えていました。暑さとの戦いです。

各地のボランティアの皆さん、朝早く起きて体力的にはきついはずなのに、"疲れた"という弱音は誰一人として漏らしませんでした。 凄いことですよね。特に私が驚いたのはフェイスペイントを担当したボランティアの皆さん。(新潟からはＯさんが担当しました)　シールをお客様に貼る作業を任されたのですが、開門と同時に行列ができ、１人何枚でも貼ることが認められていたので、３枚もシールを頼むお客様がいたことから、休みなくシールを貼っていました。何百人ものお客様を対応したので、きっとプロ並に上手くなったと思います。

休憩中は、各地のボランティアさん同士で談笑。東京までの道中の出来事や日頃の活動でのエピソードについて情報交換。サッカーという共通語があるから、話は弾みます。机でお弁当を広げ、笑い声が上がる。ここは高校のお昼休みかな。そんな雰囲気が休憩所に広がっているように感じました。

暑い中での活動も無事に終了し、休憩室に戻ると安堵感とともに終わって欲しくないという想いが沸いてきました。しばらくすると休憩室の一角がとても賑やかになりました。覗いてみると各クラブのマスコット人形がかわいらしく並んでいました。女性たちがアレンジして写真撮影していました。女性のセンスの良さ。男性では絶対に思いつかないこと。楽しみ方は女性の方が絶対上手いですね。

懇親会会場は「眠らない街」歌舞伎町の「PINK BIG PIG」（店名のとおり部屋の真ん中にでっかいピンク色の豚さんが回転していました）

乾杯して、少し歓談したあと、例年どおり参加した各クラブのボランティアさんからチーム紹介があり、その後はエール交換。

持参したお土産をじゃんけんゲームで競うイベントや歓迎の歌を披露するチーム、小ネタで参加者を笑わせようとするチーム、日頃の活動をまじめに紹介するチームなど様々なプレゼンテーションが行われました。

楽しい時間は走馬灯のように過ぎます。気が付けば１１時３０分を過ぎていました。仲間達との別れを惜しみながらも会場を後にし、眠らない街「新宿」の深夜の賑わいに驚きながら宿舎に戻りました。

○終わりに（雑感）

ボランティア活動が終わりに近づいた頃、国立競技場の上空を眺めていました。それは、活動が終わって欲しくないと天に祈るかのように。

暑かった日差しは和らぎ、通り抜ける風がとても爽やかでした。ふと視線を上空から下ろすと、各地の仲間達が楽しそうに談笑している姿が見えました。

初めて一緒に活動したというのに、大切な舞台を作り上げたという達成感を共有できたことから一体感が生まれたのでしょう。みんなの笑顔がとても素敵でした。

ここに来るといつも新しい発見と出会いがあります。

そして、それは自分のサッカーアルバムの大切な１ページになります。

新しい思い出のページが来年も加えられるように、Ｊクラブボランティアが一堂に会する舞台が設けられることを期待しています。

今年参加できなかった皆さん、来年、何かを発見するために一緒に出かけましょう。

（補足説明）

Ｊリーグ・オールスターボランティアについて

「選手がオールスターならボランティアもオールスターでやれないか」、そうした発想から新潟のボランティアがクラブやリーグに働きかけて全国のボランティアに参加を呼びかけたのは、２００４年に新潟でオールスターゲームが開催されたときでした。ゲームを精一杯サポートし、夜は親睦会で盛り上がりその後朝まで語り明かす楽しさは、その後大分・鹿島・静岡（エコパ）での開催を経て、今年の東京国立での大会につながったのです。受け入れ準備は開催地のボランティアが自主的にクラブの協力のもと担当し、それぞれ手作りの暖かいもてなしで全国からの仲間を迎えてきました。一緒に活動し互いの経験や思いを語ることで得られるものは大きく、ボランティア同士の交流が活発化するきっかけにもなってきたのです。

今年は従来Ｊ１クラブの代表選手を東西に分けてゲームを行っていた方法が大きく見直され、日本と韓国でそれぞれファン投票などで選出された代表同士の国対抗のゲームとなったことや、会場がＪクラブのホームスタジアムではない国立競技場となったことから、オールスターボランティアの活動が出来ないのではないかと心配されましたが、関東地区の複数のチームのボランティアが連携し受け入れ準備を整えてくれたことで無事に開催されたのです。

このページはさまざまなスポーツボランティアの活動情報を掲載しています。［ 活動の広がり ］

全国に総合型スポーツクラブ創設の動きが広がる中、「する」「みる」ことから「ささえる」ことへの変化がおきはじめています。と同時に「スポーツボランティア」という言葉が、一般的な単語として使われ始めているようです。ためしに「スポーツ／ボランティア／募集」というキーワードでGoogleで検索してみると、約576，000件という件数がヒットします。まだまだ私たち自身も知らない動きが全国で起きているのでしょう。今回はその中から特徴的な活動を紹介してみます。

FROM 佐賀など

それはスポーツ振興基本計画からはじまった

◆ 多くの行政のスポーツ部局でスポーツボランティアの組織化・募集がスタートしています。それは、２０００年に文部科学省が策定した「スポーツ振興基本計画」の影響が見られます。

例：佐賀県スポーツボランティア募集 http://www.pref.saga.lg.jp/web/ptortsbora.html

「佐賀県では、スポーツ振興基本計画の中で、県民総スポーツ社会の実現を目指し、「する・みる・ささえる」スポーツの振興を位置づけ、その中でも「ささえる スポーツ」の担い手としてスポーツボランティアの育成に努めるとともに、スポーツボランティアが自主的・自発的に参加できるような体制・組織づくりに取り 組んでいます。」（ＨＰより）

Ｇｏｏｇｌｅ検索では同様に行政が募集している例がたくさんあります。（現在検索上位の一例）

◆ 埼玉県 http://www.pref.saitama.lg.jp/A20/BA41/supobora/supobora.html

◆ 米原市 http://www.city.maibara.shiga.jp/index.php?oid=333&dtype=1000&pid=300

◆ 上越市 http://www.city.joetsu.niigata.jp/boshu/sports/index.html

◆ 厚木市 http://www2.city.atsugi.kanagawa.jp/sports/taikyo/page_22207.html

FROM 滋賀など

一緒にチームを支えたい

◆ 行政の募集に次いで目立つのがやはり特定のチーム、特にさまざまなプロスポーツのチームを支えるためのボランティア募集で、活動の対象がある程度限定されていることが特徴となっています。

例：滋賀ＦＣスポーツボランティア募集 http://shigafc.shiga-saku.net/e93077.html

◆ ジュビロ磐田ホームタウン推進協議会 http://hometown-iwata.seesaa.net/article/34951416.html

◆ ＦＣ東京・市民スポーツボランティア http://www.fctokyo.gr.jp/files/2008youkou.pdf

◆ 鹿島アントラーズスポーツボランティア http://www.so-net.ne.jp/antlers/news/detail/20071225_12_1057.html

◆ 仙台８９ＥＲＳボランティア http://www.89ers.jp/news/07news/news20080804.html

◆ アルビレックス新潟 http://www.albirex.co.jp/contents/support/volunteer.php

◆ 愛媛マンダリンパイレーツ http://www.m-pirates.jp/complete/old_topics/000361.html

◆ ニューウェーブ北九州 http://www.kitakyushu-fc.org/page_volunteer.php

やはり多いのはサッカー、しかし、そのほかにもバスケットや野球の独立リーグまで年々スポーツボランティアの活動範囲は広がっていると感じます。

FROM 島根など

スポーツをする障害者をささえる活動

◆ 北京でのパラリンピックや全国に支部を持ち積極的に活動しているスペシャル・オリンピックスの活動など、身体的や知的な障害のある方々のスポーツ活動全般を支えるボランティアが確実に増加しています。

例：北九州市障害者スポーツボランティアの会 http://genki365.net/gnkk03/pub/sheet.php?id=12820

◆ 横浜ラポール http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/prdl/jsrd/norma/n227/n227_01-03.html

◆ 島根県障害者スポーツボランティアバンク
http://www.fukushi-shimane.or.jp/cgi-bin/volunteer/index.cgi?act=info&id=162

◆ 山口国体障害者ソフトボールボランティア
http://www.town.abu.yamaguchi.jp/sys/topics/detail.php?detailID=160

◆ 三重県障害者スポーツ協会 http://www.mie-reha.jp/sp_kyokai/borantia/07_page.html

◆ 兵庫県スポーツ交流館 http://www.hwc.or.jp/kouryukan/p02-6.html

活動自体をどのように理解してもらうか、以前関係者にお聞きした際には、大変そうというイメージやや特別な技術が必要という先入観を変えるのが難しいということでした。誰でも出来る簡単なサポートもたくさんあるとのことです。

ＳＶ２００４
活動報告

宮城スタジアムカップ
ボランティア
２００８年８月１６日～１９日

８月１６日から１９日に開催された「宮城スタジアムカップ」のボランティアに参加してきました。全国から集まったＵ－１８年代の１６チーム、その中には広島・浦和・仙台・Ｇ大阪というＪクラブのユースと全国の高校サッカーの有力チームが含まれています。予選二日目の１７日は４チームでの総当りによって各ブロックの１位から４位までの順位が決定し「青森山田・前橋育英・野洲・星陵」が各ブロックの１位となり、Ｊクラブのユースの大半は各ブロックの２位となったところが多かったようです。朝７時半から４日間連続のボランティア活動はなかなかハードなものです。今回の主な活動は総合案内と大型映像となっています。私は大型映像のグラフィックを担当しました、内容は大型ビィジョンにうつされる試合結果や、他の会場（４つの会場で同時に開催されています）の途中結果や試合結果をパソコンに打ち込み、ビィジョンに連動させるものです。このほか今日は４名が、選手表示／得点表示／カメラ映像などを担当しました。特に得点や選手の交代は出来る限りスピーディに対応する必要があるため試合中は息を抜く時間もありません。スタジアムにボランティアが発足して５年、手馴れた様子で操作する仲間をみるとうれしいものです。よろしければ、ほとんど毎週のように週末には陸上を中心とした大会が開かれていますので、その活動を体験しにいらっしゃいませんか。

そして１９日は１６日から続いていた「宮城スタジアムカップ」の最終日でした。９時半からの３位・４位決定戦は星陵高校と青森山田高校で前日夜からの雨が残る中での試合となりました。
昼過ぎからの優勝決定戦は前橋育英高校と野洲高校、時折太陽も顔をだし最終戦を見守りました。いずれも最初は拮抗した展開から最終的には青森山田と前橋育英がそれぞれ勝利したのですが、このあたりは選手層とゴールへの突破力の差を感じました。ともかく惜しいシーンも多く両方ともみごたえのある内容でした。

閉会式ではピッチ上に全１６チームが並び、成績発表、表彰式を行いましたが、大会の関係者からボランティアへのねぎらいの言葉があったのは本当にうれしいことでした。

大会は今年で５年、関係者の努力で全国からＵ－１８の強豪チームが集まる大会になりましたし、参加するチームからも年間の中で参加し、いい成績をあげることを目標としているという声も聞かれます。今後も回数を重ね盛り上がる大会になってほしいものです。（K. I）

◆　大会の結果　　http://www.miyagi-fa.com/news/detail.cgi?reqno=842

このページは市民型スポーツボランティア　ＳＶ２００４の紹介ページです

SV2004について

【　誕生の経緯　】

ＳＶとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、１９９８年からスタートした「ブランメル仙台」（現在はＪ２ベガルタ仙台）のボランティアや２００１年の国体、２００２年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で２００４年に発足しました。

役割（ミッション）

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

○　私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
○　そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
○　思いをともにする人々とのネットワークを構築します
○　活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
○　サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
○　スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動（アクション）

活動の記録・報告はＳＶホームページをご覧ください

★　スポーツ全般のコーディネート活動　・・・　楽天イーグルス・仙台８９ＥＲＳボランティア組織立ち上げサポートなど
★　スポーツ及びボランティアのセミナー活動　・・・　接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
★　スポーツに関する調査・企画・提案活動　・・・　ボランティアアンケートの実施など
★　スポーツ情報発信活動　・・・　ＳＶニュース、ホームページからの情報発信など
★　スポーツネットワーク・交流活動　・・・　全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
★　スポーツ環境改善活動　・・・　チーム・マイナス６％との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたＳＶ活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員・活動趣旨に賛同するサポート会員があります

［入会方法］

◎　正会員　・・・　年会費３，０００円　・　学生は１，５００円　（年度は４月～翌年３月となります）
◎　準会員　・・・　年会費５００円　　◎　サポート会員　・・・　年会費２，０００円
◎　お支払い方法・・・郵便振込み　郵便口座　１８１９０－２５９３０６５１　ＳＶ２００４まで（振込み料はご負担願います）
または、ＳＶが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。（イベントはホームページでご案内します）
◎　申し込み先　郵送の場合　〒９８０－０８１１　仙台市青葉区一番町４丁目１－３　仙台市市民活動サポートセンター　ＳＶ２００４
レターケースＮＯ．５０　（必ずレターケースＮＯをご記入ください）
メールの場合　izumita@dm.mbn.or.jp　ＦＡＸ　０２２－２７４－１４６９
◎　申し込み書はホームページよりダウンロードできます　http://www.miyagi-sports.net/sv2004

◆　多くのチームでボランティアを募集中です

北信越フットボールクラブボランティア　Division1＜　各チームの公式ホームページより　＞

いつかはJリーグをめざすチームがたくさん、特に北信越リーグは全国屈指の激戦地域となっています。

［松本山雅フットボールクラブ］　ボランティアページ　http://alwin.org/modules/tinycontent/index.php?id=18

［ＡＣ長野パルセイロ］　ボランティアページ　http://www.parceiro.jp/modules/cont/index.php?id=10

［ＪＡＰＡＮサッカーカレッジ］　ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

［ツェーゲン金沢］　ボランティアページ　http://www.ishikawafc.sv.bigsite.jp/menu21/tp-lp01-0221.html

［フェルヴォローザ石川・白山フットボールクラブ］　ボランティアページ　http://www.fervorosa.com/fervorosa2007-/bosyu2.html

［ヴァリエンテ富山］　ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

［グランセナ新潟ＦＣ］　ホームページ上にはページをみつけられませんでした。

［サウルコス福井］　ボランティアページ　http://www.saurcos-fukui.jp/volun/

◆　Division2 の以下のボランティアページはみつけられませんでした。

新潟経営大学	ＦＣ・上田ジェンシャン
大原学園ＪａＳＲＡサッカー部	ＦＣ．アンテロープ塩尻
丸岡フェニックス	新潟福祉大学
日精サッカー部	ＣＵＰＳ聖籠

（注意）　内容は０８年９月０５日段階のものです、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

ＴＨＡＮＫＳ　＜　今月号のＳＶニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。　：　敬称略　＞

♥　金子　法泰　♥　スポーツボランティア調査にご協力いただいた全国のボランティアのみなさん

☆　**スポーツボランティアの前向きな情報（募集・活動報告など）を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場としてＳＶニュース活用願います。**（提供先は下記に記載）

◆　**股旅フットボール**　（単行本／宇都宮　徹壱／東邦出版）・・・スポーツに関する書籍紹介

そもそもきっかけは２００１年、翌年に迫ったワールドカップの盛り上げのための企画で「サポーター新世紀」という写真展を宮城のW杯支援の市民組織として開催、その撮影者として登場したのが宇都宮さんでした。といっても名刺交換した程度、ただフランスワールドカップのサポーターの写真を拝見したという記憶しか残っていませんでした。その後、写真展は国内のワールドカップ開催地を回ったことは知っていましたが、いつしかカメラよりフリーライターとしてサッカーの専門誌やネット上で名前をみることが時々ありました。

その宇都宮さんが「股旅フットボール」という書籍を出しました。副題は「地域リーグから見たＪリーグ百年構想の光と影」とあります。そのタイトル通りここでは、取材当時必死でＪリーグを目指して全国各地の地域リーグで戦っていたチームが取り上げられています。たんねんに人に会い、その思いを綴り、そこに自分の思いを書き加えていく作業、さまざまなチームのさまざまな苦労は、当然取材にも影響します。一方、ひとつになって真剣にトップをめざす人々からは自分たちがともすると忘れかけている熱い思いが伝わってきます。

編集後記

今年はいつ夏が来ていつ去ろうとしているのかがわからないくらい不順な天候が続きました。雨や雷によってスポーツイベントが中止になったり影響を受けるケースも目立ちます。その天気を人工的に変えて北京オリンピックが8月8日から開催されました。自然の営みを無理やり変えて別の顔を作ること、その表面をとりつくろう行為が果たして正しいものなのかはわかりませんが、隣国の大会であった割には近く感じられなかったのは気のせいでしょうか。大会では主催国である中国の強さが目立ちました。その意味では国策としてスポーツに取り組むことの効果を最大限に示したイベントとなりました。同様に次回開催国のイングランドもメダルの数を増やしました。全ての実力を出し切るにはあまりにも短い時間の中で最高の結果のみを追求すること、中国に限らずオリンピックに出場する選手の重圧はどれほどのものなのでしょう。競技が終わり一人の人間に戻りどこかほっとした顔をする選手の姿が忘れられません。

◆　このＳＶニュースはＳＶ２００４の公式ホームページでもご覧になれます。　http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。　◆　情報提供先　izumita@dm.mbn.or.jp